

令和2年度 第2回 釜利谷協議会

(11月17日開催)

○釜利谷協議会 出席者

佐藤幸也 鈴木節夫 小泉啓治 石井ともみ

○内容

- ・研究授業参観 研究テーマ：「生徒が主体となる授業づくり」
- ・研究協議

○議事録

1 開会（副校長）

初の顔合わせでの実施のため自己紹介から始めたい。

また、本日は欠席されているが、新たに金沢動物園 小園園長が加わった。

2 校長挨拶

今日は今年度初めての顔合わせである。1回目は書面での開催をさせていただいた。例年では、2回目を文化祭の時に開催をさせていただき、3月の年度末に3回目を開催している。しかし、昨年度末の2月に安倍総理が学校の休校を発表した時には私自身驚きを隠せない状況であった。

卒業式、入学式も保護者なしで行った。学校は6月からスタートしたが、週1回、週2回、週3回と段階的に登校させることになった。

現在の授業の形になったのは9月に入ってからである。現在の形は、8時55分登校で通常より遅くなっている。本来50分授業だが、45分で行っている。

今回のコロナ禍の状況は、生徒、職員とも大きな負荷がかかった。「授業時間の変更される」「毎回消毒を行う」「冬期でも換気をする」など、普段とは違う状況が続いている。

この状況下、私自身何を大切にするかを職員に伝えてきた。クリエイティブスクールとして、生徒が学校に行きたいと思える環境づくりを優先している。

4、5、6月に中止になった行事を工夫して2学期に行っている。「校外学習」「中止になった文化祭の代替の芸術鑑賞会」「球技大会の代替のクラス交流会」を実施している。

今回の釜利谷協議会では委員の皆様が生徒の学びを見ていただきたいと思い、授業見学をメインに開催させていただく。見学後ご意見をいただきたい。

3 研究授業見学について（副校長）

本日の組織的な授業改善研究協議会については、毎年1回研究授業をしている。教科を超えた複数人のチームで研究をし、授業を検討している。授業者は1名だが、みんなで作った授業である。

本日は3名の新採用教員と3年目の教員1名が授業を行う。

授業者の授業技術の向上を目指しているのではなく、本日の目的である「生徒が主体となる授業づくり」となっているかの視点で授業を見ていただきたい。研究授業後、協議を行う。

英語科の教員の話では、英語を苦手とする生徒に英語の楽しさをどのように伝えるか日々考えている。本日お見せする音楽科の授業では、琴をレンタルしみんなで演奏を行う。4名それぞれの授業に対するアプローチの方法を見ていただきたい。

4 授業見学についての質問

<小泉>

授業は自由に見てよいということか。

→すべて会場は3Fである。自由に見ていただける。

今年度、同窓会の協力を得てすべての教室にプロジェクターを導入した。PTAからはスクリーンを購入いただいた。日常8割の教員が活用している。

<石井>

琴を導入するということはすごいと思う。

<鈴木>

A科目が中心か？地理Aということでよいか。→その通りである。

研究授業は年に1回か？→その通りである。

5 授業見学後の意見交換

<石井>

少人数の英語は有り難い。とても良いと思う。クラスが分かれること（人数が少ない）によって質問もしやすいのでは。

英語の授業であるが、地理的な要素も入っている。少ない人数であるので、教員が英語を使って説明をすると良いのではと思う。日本語が多い。

<鈴木>

ALTもいるのか？ALTはどのような授業を行うのか。→各授業を持ち回りで行う。

どの教員も生徒に寄り添った授業をしておりととてもよい。授業に参加しない生徒はいない。積極的に発言している場面があった。

<小泉>

気になるところがある。高校の授業は初めて見学した。主として国語と地理を見た。生徒が主体となる授業とあったが、課題に対してプリントの穴埋めになってしまっているような気がする。

例えば、羅生門では物の感じ方の違いを友達と共有できると良いのではないか。そういう見方もあるのかということを知ってもらいたい。作者の考えについて、高校生であれば気付くのではないか。学習を絞って教えることも大切ではないか。

地理についても中国の一人っ子政策についてもっと深堀をすると、面白いのではないか。教室においてみんなで授業を行うことの意味が明確な方がよい。

<鈴木>

講義型ではなく、生徒の活動がもっとあった方がよかったのではないか。

→新型コロナの影響でグループ学習が行いにくい。45分間の授業の弊害もある。

<小泉>

3分間考えてプリントを記入するという指示だったが、3分間考える時間に教員の説明があり、生徒にとってはうるさく感じるのではないか。

<鈴木>

先生と生徒の距離が近くて良かった。

<佐藤>

10年間釜利谷を見てきたが、学習に対する構えができている。先生方の指導が生徒の安心感を与えている。よくぞここまで来たと感じた。

少人数の授業が丁寧で良い。なぜ日本の学校は集団で授業を行っているかということ、集団志向が育つ

ように学校で集団指導を行っている。

地理の授業で深い思考をしている生徒がいた。しかし、指導する教員の事実の確認が弱いと感じた。もっと主たる教科書を利用した方が良い。教科書の読み方で大切な部分分かるようにした方が良い。教科書の内容を丁寧に確認するといった授業方法を基本とした方が良い。

人口論は非常に難しい分野である。一人っ子政策はいい、悪いではなく、中国を科学的に合理的に理解することが大切。ベテラン教師が示すのがよいのではないか。

リモートの授業では多くの生徒が基礎学力の定着に課題が残っている。教材をもっと丁寧に扱う。国語の授業でも「漆黒の闇」について、丁寧に読み解いていかないといけない。人間力の基礎は日本語である。今日の授業だけを見て発言すると学習課題の作り方の熟度が足りないと感じる。プロジェクターを利用し教材を補っているが、教科書とノートをもっと大事に利用すると良い。

<副校長>

生徒は落ち着いて授業を受ける状況ができてきた。次は授業の充実が必要となってきた。これからは授業の内容が大切である。

<佐藤>

授業の中で記入したプリントの見せ合いを行うことも大切である。

<鈴木>

少人数だからこそできる教育がある。教員の数も減っている状況を何とかしなければいけない。教員数が減ることのないように県教委に働きかけていただきたい。この協議会の意見である。

<石井>

募集定員の減少によって教員数が減少するということが、募集定員は県教委が決めるのか。→その通りである。

<佐藤>

何千人もの生徒が釜利谷を頼って受験している。その期待に応えなくてはいけない。

最後に協議会メンバーでもっと親睦を図れるような企画を計画していただきたい。